

システム創成プロジェクト 補足資料

2026年度

产学官連携による IT人材の育成プロジェクト

島根大学

- エンジニアリング・デザインに関する実践的な教育を強化したIT人材育成

県内IT企業

- 地域課題を捉え、高度なIT技術を積極的に活用し、ビジネスを創造できる人材育成

島根県・松江市

- Rubyを軸としたIT産業振興
- IT人材の地元就職・定着

IT企業の集積が進む島根県にある本学部ならではの授業を！

授業の概要

- 学生8～10名程度（2年生と3年生が半数程度ずつ）と企業のエンジニア、教員で構成するチームで2年間のプロジェクトを遂行します。
- チームごとに設定したテーマに基づき、学生が配属希望を提出、教員がチーム分けを行います。
- チームには次の2タイプがあります。
 - チームでのITシステム開発プロセスを学ぶ「チーム開発指導型」
 - DXによる新事業の創出を目指す「イノベーション創出型」
- 1回100分の授業が42回／年あります（6単位）。
- 学生は、1回の授業につき、100分の自己学習が必要です。次の授業までに学生が取り組む課題の目安として下さい。

協力: 松江市

協力: 島根県

授業の到達目標

- 学生がこの科目で身に付ける知識・技術です。
- チーム開発指導型は2を、イノベーション創出型は1、3、4を重視しています。

1. ビジネスプランの立案プロセス、または、開発するシステムの要求分析・設計プロセスにおいて、問題とその解決策を論理的に議論し、チームで共有できる。
2. チームで協働し、コンピュータを用いたシステムの開発ができる。
3. ビジネスプランのアイデアの検証、または開発したシステムの評価ができる。
4. ビジネスプランのアイデア、または開発したシステムを他者へ伝えることができる。

学生の開発環境・レベル

開発には、学生が所有しているノートPC等を使用します。

しかし、すべての学生が開発に適したスペックのPCを所有しているわけではありません。

- 2年生
 - ▣ Pythonのプログラミングの基礎について学んでいます。
- 3年生
 - ▣ 2年生でシステム創成プロジェクトを履修済みであり、「チームによるシステム開発」または「ビジネスプラン作成とプロトタイプの試作」の経験があります。

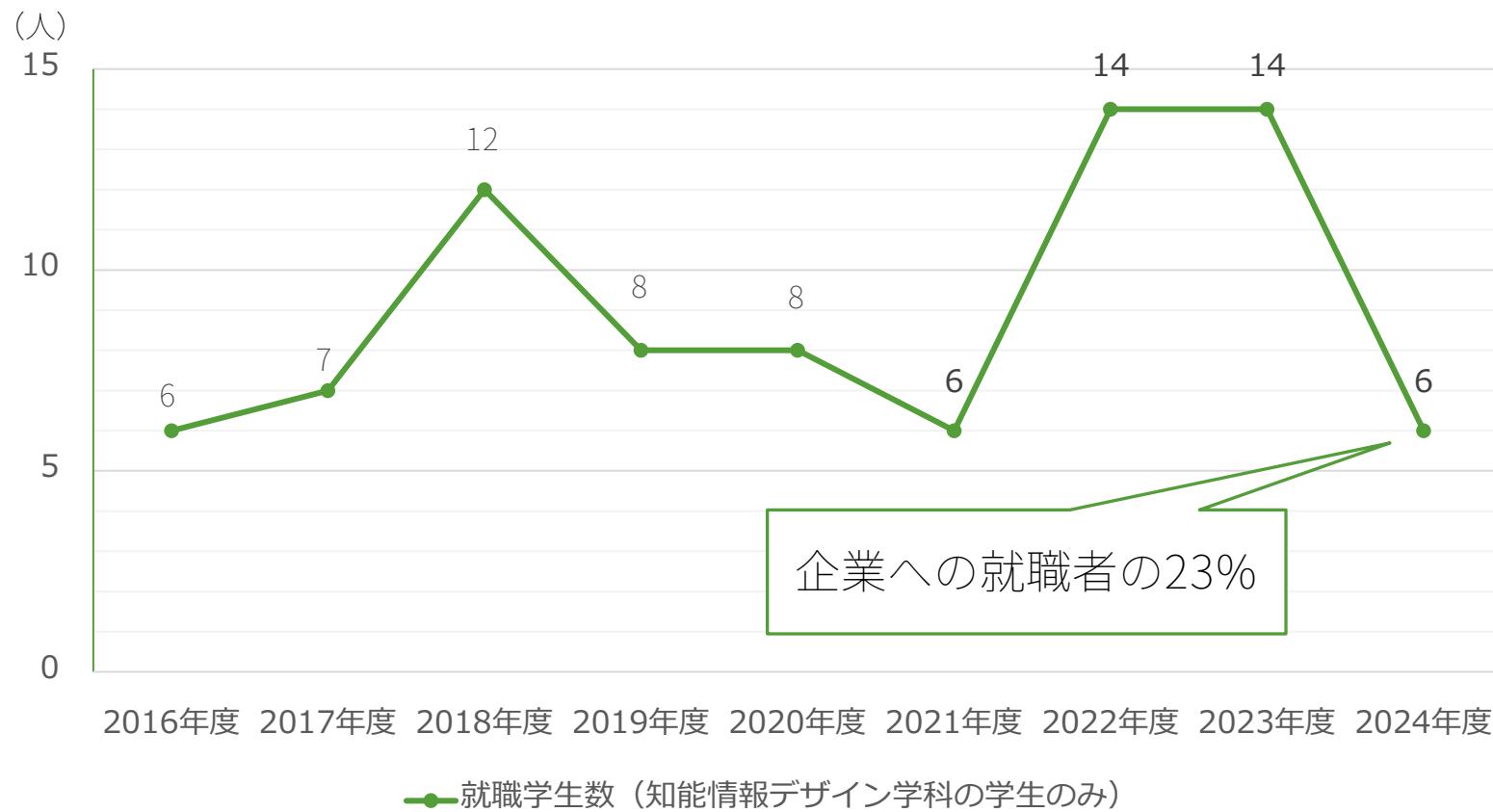
授業の進め方

それぞれのチームに担当教員を割り当てます。担当教員と相談しながらプロジェクトを進めて下さい。

別添の日程についての補足

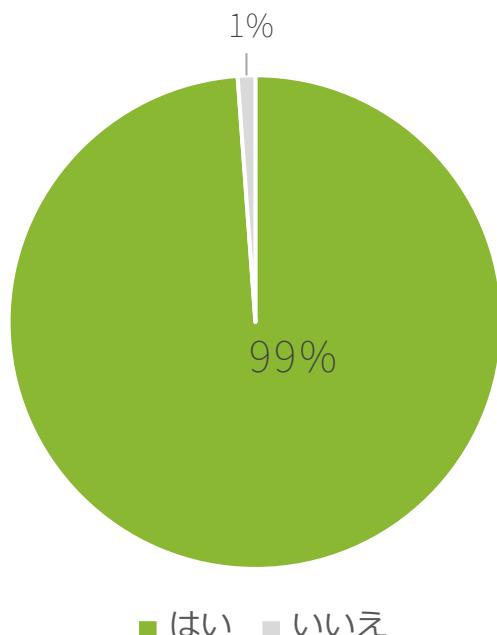
- 参加回は、チーム開発指導とイノベーション創出型で異なります。それぞれの参加回では、面接授業またはSlack等によるオンラインでの指導をお願いします。参加回の日程変更等の希望があればチーム毎に対応します。各チームの担当教員にご相談ください。
- スプリント回は開発を行う回です。イノベーション創出型の場合は、インタビューの実施・分析やビジネスプランの作成も含みます。なお、アジャイル開発ではなく、ウォーターフォール型の開発でも構いません。
- 4月7日（第1回）のチーム配属に向けた企業紹介等の提供を後日依頼します。

島根県内にオフィスのあるIT企業への就職状況

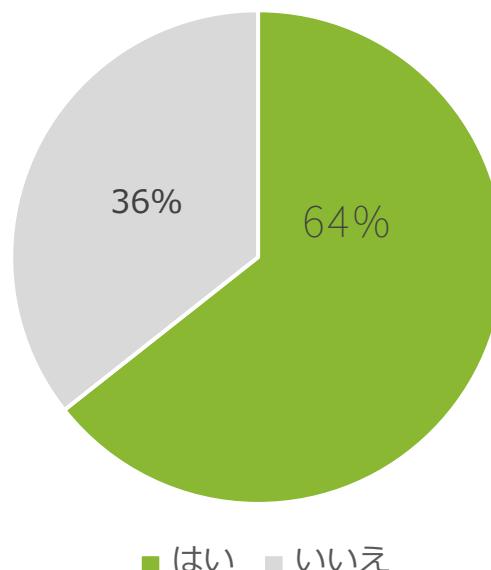


2025年度の 学生アンケート(N=87)

システム創成プロジェクト
は、あなたのキャリアの参考
になりましたか？



将来就職活動を行うときに、
島根県内にオフィスのあるIT
企業へエントリーする可能性
はありますか？



学生は、システム創成プロジェクトでの経験をキャリアの参考にし、島根県内にオフィスのあるIT企業へのエントリーを検討しています。

学生のコメント（抜粋）

- チームで開発を行う中で、どのようなプロダクトをつくるか、MVPをどう設定するかといった点が非常に難しいことを実感した。実際に開発を進めてみると分からぬ課題が次々に出てきたが、それらを乗り越えながら取り組めたことで、要件定義・設計・実装の一連の流れを深く理解できた。学生のうちからこのようなプロセス全体を経験できたことは非常に良い学びになった。
- チームで1つのプロダクトを作成する中で、コミュニケーションの大切さや知識の活かし方を学ぶ機会になり、エンジニアとしての働き方や楽しさを知ることができた。
- 社会人の方のアドバイスを受けながら開発する経験は貴重で、学んだ内容が「現場ではこう使われる」という理解につながった。

学生との接点

システム創成プロジェクトでは、キャリア教育の観点から、参加企業と学生の交流を重視しています。

授業で指導をしていただくチームの学生に加えて、それ以外の履修生との接点を用意しています。

- 第1回の授業及び成果発表会において、企業紹介の時間を設けます。
- セミナーやインターンシップなど、イベントの告知ができます。授業のSlackに専用のチャンネルを用意していますのでご利用ください。
- 成果発表会では、学生からの質問を集め、企業の方に回答していただくパネルディスカッションを行います。